

次の各問いに答えなさい。

一

次の――線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 台詞を暗記する。
- ② 除草剤を散布する。
- ③ 自らに問う。
- ④ 牧師が説教する。
- ⑤ ウチユウ飛行士になる。
- ⑥ 見通しをアヤマる。
- ⑦ 朝令ボカイの政策。
- ⑧ 大きな馬がアバれる。

二

次の①～⑤の各文の「A」「E」に入ることばが( )内の意味になるように、後の語群から一つずつ選び、それぞれ漢字に直して書きなさい。

- ① 岡山県で優勝したサッカー部と柔道部に「A」を送る。(相手をほめることば)
- ② 自分の意見を「B」に述べる。(むだがはぶかれ、はつきりしているさま)
- ③ 企業が生き残りをかけて「C」する。(勝とうとして戦うこと)
- ④ 旅の「D」に絵はがきを買った。(特別な出来事を心にとどめること)
- ⑤ 重大な「E」を負う。(自分の果たすべきつとめ)

語群

ヨカン ・ ケンリ ・ サンジ ・ シユクジ ・ ソツチヨク  
セキム ・ キネン ・ サクゴ ・ カンケツ ・ キョウソウ

## 三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あなたは毎日、どのくらいスマホを見ているでしょうか？

夜寝る前、朝起きた後、電車の中、カフェでもスマホを手放せない人。学校の授業中に見ている人もいれば、歩きスマホをしている人もいるかもしれません。ではスマホで何を見ているのか？

私の教え子の大学生たちに聞くと、SNSや YouTube を見ているかチャットをしている時間が多い感じだ。

もちろん、それはそれで構わない人もいますでしょうけれど、少なくともこの本を読んでくださったあなたは、少しでも学びの時間を増やしたいと思っ**て**いるはずだ。

であれば、寝ても覚めてもスマホが気になって頭から離れない人は、スマホ断ちの習慣を身につけなければいけません。スマホ依存気味の人にまず読んでほしい本は、スマホが人間の脳に及ぼす悪影響について書かれた『スマホ脳』(新潮新書)です。

スマホがあると@手に取らずにはいられない、夜も朝もスマホが気になって眠れない、勉強なんて集中できない……。そのような状態が続いていたら、スマホによって脳が何かしらの悪影響を受けている可能性があります。

この本によると実際に、スマホの影響による睡眠障害や依存症、記憶力、集中力、学力の低下などが明らかになっています。

スマホがポケットに入っているだけでも学習効果が低下して勉強を阻害する、という研究結果もあります。

つまり、スマホが身の回りにあるということは、①**由がフンブン**周りを飛んでいるようなものです。

脳科学者の川島隆太先生も、『スマホが学力を破壊する』(集英社新書)という新書を出しています。この本は、7万人の子どもたちを対象にした、数年間に及ぶ大規模調査の結果にもとづき、スマホが脳に与える悪影響をまとめたものです。

スマホを見ている時間が長ければ長いほど、子どもたちの数学の平均点が低くなっているグラフなど、スマホの利用時間と学力の相関関係を示すデータもいた**め**、子育て中の親御さんが読むと衝撃を受けるかもしれません。

それほど、スマホは私たちが人間の脳を侵食しているのです。「A」今となってはスマホがない生活も考えられません。

少しでもスマホの弊害を減らすためには、日常生活で**※**にスマホを遠ざけるなどの工夫が必要です。

私自身も、仕事中の一定時間はスマホの電源を切って、カバンにしまい込んでいます。

ただカバンに入れているだけだと、着信音やバイブレーションが鳴ったり、電話がかかってきたりして、集中できなくなるからです。

クイズ番組『東大王』に出演していた鈴木光さんも、著書『夢を叶えるための勉強法』(KADOKAWA)の中で、家で勉強するときはスマホの電源を切つて、勉強場所から遠いところに置いていたと書いています。図書館や自習室などで勉強するときも、勉強道具以外のものは持つていかないようにしていたそうです。

そのように、気が散るものから距離を置くと、だいたいが安らかになります。学びの「構え」として心を安定させることは重要な**な**のです。

仕事でも勉強でも、何でも効率性にはかり気をとられがちなのですが、だからといって学ぶ「構え」まで**⑥ないがしろ**にしてしまうと本末転倒になっ**て**しまいます。

学びの「構え」として身体を整えるために、今日からでもすぐに実践してほしいのは「呼吸法」です。

私は、現代人の呼吸が浅くなっていることに危機感を覚えて、『呼吸入門』(角川文庫)という本を出したことがあります。呼吸なんて意識していない人がほとんどだと思いますが、**②美は、身体**の力は**呼吸ひとつで大きく変わる**のです。

私がすすめる呼吸法はまったくむずかしくありません。

鼻から3秒吸って、2秒ためて、15秒で口から吐ききる。15秒が難しい人は10秒程度でもかまいません。たったこれだけですが、身体**の**力が劇的に高まるので**す**。

ポイントは、吸った息をゆるやかに吐くとき、吐く息とともに雑念が出ていき、落ち着くよう意識することです。

NHKの番組で呼吸法の指導をしたとき、呼吸法をする前とした後で、それぞれ参加者に計算問題を解いてもらいました。すると、呼吸法を実践したあとのほうが、明らかに成績が上昇したのです。

なぜだと思いませんか？

ストローで息を吐くように、フツとゆつくり息を吐ききることで、脳の中でざわついていた考えや気持ちもいったん静まります。すると、「B」外がざわ**つ**いていても自分だけは集中している状態になれるからです。

(中略)

日本には、剣道や合気道などの武道から、茶道、華道などの芸道まで、さまざま**な**「道」がつく習い**い**ん**こ**とがあります。

武道や芸道でも、「心の構え」をそれぞれの「道」における学びで重視**し**ていて、心を整えるためには息を整える必要があると考えています。

座禅の心得にも、「調身、調息、調心」という言葉があります。姿勢を整える「調身」。息を整える「調息」。心を整える「調心」。この3つが整**つ**てはじめて座禅に向かう「構え」ができるわけですね。何事においても「構え」が必要で、いきなり集中できるわけではありません。

特に、インターネットありきで生活している私**ら**は、情報の海の中で常に犬かきをしているような状態です。犬かきの様子を思い浮かべていただきたいのですが、非常に**あ**わただしく脚を動かさなければおぼれてしま**い**ますよね。

私たちの脳はそれほど忙しく情報を処理しながら生活している**の**で、それだけ疲れがたまっています。その状態から、いきなりひとつのことに集中しな**い**と言われても、犬かきをすぐ止めることはできません。

ですから、**③いったん区切る作業が必要**なのです。

アメリカの作家のステイブン・キングも、『小説作法』という本の中で次のように述べています。

「ただ一つ、必要なのはドアを閉じて外部と隔絶することだ。閉じたドアは、人はもちろん、自身に対しても覚悟の表明である」

「なるべ**く**なら、書斎に電話はないほうがいい。テレビやビデオゲームなど、ひまつぶしの道具は**④論外**である。窓はカーテンを引き、あるいは、ブラインドを降ろす。ただ、四面が白壁のようになるのは感心できない。作家すべてに言えることだが、特に新人は気が散るものをいっさい排除すべきである。経験を積むにつれて、ちよ**つ**とやそ**つ**とで気が散ることはなくなるに**ち**がいないが、とにかく、デスクに向かう前に余計なものは片付けておくのが一番だ」

あの大ベストセラー作家でさえも、執筆に集中するために余計なものをすべて排除した空間を作り、創作に向かうための環境作りと心構えに**こ**だわったのです。一般人の私**ら**はなおさらのこと、呼吸を整え、環境を整えて、学びの態勢作りを意識しなければいけないのです。

(齋藤 孝 『自字自習の極意』による)

- (注1) 阻害する——さまたげる。  
 (注2) インターネットありき——すでに世の中にインターネットが存在しており、それが当然であるとされている状態。  
 (注3) 隔絶する——関係を絶つ。

問1 次のI・IIの問いに答えなさい。

- I 線部④「手に取らずにはいられない」、線部⑥「ないがしろ」の意味として最もふさわしいものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
- ④ 「手に取らずにはいられない」
- |   |                |            |
|---|----------------|------------|
| ア | 手に取るはずがない      | ⑥ 「ないがしろ」  |
| イ | どうしても手に取ってしまう  | ア 欲を出すこと   |
| ウ | 手に取ってみるべきである   | イ 軽んじること   |
| エ | 手に取ってしまうかもしれない | ウ 気をとられること |
|   |                | エ 追い求めること  |

II 線部⑤「論外」と似た意味になるように、□に入る漢字を考え、四字熟語を完成させなさい。  
 ・□語□□□

- 問2 線部①「虫がブンブン周りを飛んでいるようなもの」とありますが、これはどのような様子をたとえたものですか。最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア スマホを使い続けると、常にスマホのことが頭から離れなくなってしまうこと。  
 イ スマホがポケットに入っているだけで集中力が低下し、勉強が手付かずになること。  
 ウ 手元にスマホがあるだけで人間の脳が侵食され、あらゆる能力がおとろえること。  
 エ 身近にスマホがあると、心が落ち着かなくなり、さまざまな弊害が生じること。

- 問3 本文中の「A」「B」に入ることをばを、それぞれ後のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じことばは二度使えない。)
- ア あたかも    イ おそらくは    ウ そのうえ    エ もしくは    オ たとえ    カ だからといって

- 問4 ※           に入ることをばとして最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 物理的    イ 間接的    ウ 集中的    エ 試験的
- 問5 線部②「実は、身体の力は呼吸ひとつで大きく変わる」とありますが、どのように変わりますか。本文中のことばを使って、解答らんにつくように、十五字以内で答えなさい。

- 問6 線部③「いったん区切る作業が必要なのです」とありますが、「区切る作業」とはどのようなことですか。「区切る作業」が必要な理由もふくめながら六十五字以内で答えなさい。

- 問7 本文中に述べられている内容として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア インターネットを使用するときには、必要な情報のみを取捨選択しゅせんせんたくすることが大切である。  
 イ スマホを過度に使用すると脳が壊こわれるので、所定の使用時間を守って使うべきである。  
 ウ 筆者の勧めすすめる呼吸法を実践すれば、スマホで低下した成績を上昇させることができる。  
 エ 私たちはスマホのような気が散るものを遠ざけ、学ぶ環境作りを意識する必要がある。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学五年生の「ぼく」(井田敦也)は、藤堂義三というおじいさんに、ピンポンダッシュをした犯人だと疑いをかけられています。そこで、同じクラスの魔王(堤奏太)といっしょに藤堂さんの家に行き、無実を証明しようとしています。次は、事件が起きた当日と同じ状況を再現している場面で、魔王が藤堂さんの家のチャイムをならし、走ってとなりの佐々木さんという家のガレージに隠れたところです。

藤堂さんはぼくを見て、ぼかんとした。

「ほんとうに、おまえは押してないのか？ わしの場所から、チャイムの位置は見えない。ごまかしてないか？」

藤堂さんは、慎重だった。魔王が押した証拠はない。それに魔王がチャイムを押しただけでは、ぼくが押していないという証拠にはならないといはる。

でも、魔王は動揺しなかった。

「おれが押したという証明ならできます。」

ランドセルを地面に置いて、ふでばこから赤いサインペンを選んで、とりだし、それで①チャイムのボタンを赤くぬった。

「おい、おい、やめろ。何をしてる？」

藤堂さんは目をつりあげた。

「こうすれば、押した人の指が赤くなるでしょ。だれが押したか証拠になります。あとで色はきれいに落としますから。」

「そうか。よし。意味はわかった。」A のためおまえらの指、見せておけ。」

ぼくらは両手をパーにして藤堂さんに見せた。今、どちらの指も赤くない。

「押したやつ指が、赤くなるんだな。」

もう一度、藤堂さんは花台にもどった。

ぼくと魔王はさっきと同じ位置にもどって、同じことをくりかえす。

チャイムがなると、藤堂さんがとびだしてきた。

ぼくのほうをまず見る。

それから体をのりだして、となりのガレージのところを見た。かくれていた魔王が立ちあがった。

「たしかに、そんなふうにならぬ。車のほうにすわっていると、見えないかもな。よし。指を見せてみる。」

魔王が手をひろげた。ぼくもひろげた。

ひとさし指に赤い色がついているのは、魔王だけだ。

「ね、ぼくが犯人じゃない場合もあるってわかったでしょ。ぼくはやってない。他にいるんだ。いたずらをした犯人が。」

えっへんとむねをはる。

「うーん。」

②藤堂さんは目をしばたかせ、腕をくんだ。

「じゃ、真犯人は、どこのどいつだ？」

声をはりあげる。

「そこまでは、わからないよ。」

「じゃ、おまえかもしれないじゃないか。やってないかもしれないことはわかった。でも、おまえでないという証拠にはならないぞ。」

痛いところを突かれた。

この実験で証明できるのはここまで。犯人がほかにもいる可能性があるってところまでだ。

やっぱり、やってないことの証明、「悪魔の証明」はできないのか。

奥歯をかみしめたときだ。

「目撃者をさがそう。このままだったら、気持ち悪い。」

とつぜん、魔王がいだした。

「ここにかくれるのなら。」

そういつて、となりの佐々木さんという家を見る。新築のおしゃれな家で三階建てだ。

「こここの家の人が見ていたかもしれない。」

「それはいい。この家のことはよく知っている。小一の龍介くんがわしの道場にかよっている。じつにかわいい子なんだが、弱々しかったから、きたえてやろうと思って、さそったんだ。」

げーって思った。ぼくが龍介くんなら、藤堂さんから剣道をならうなんて、ぜったいにいやだ。

「聞いてみよう。今、明かりがついているから、だれかいるじやろ。」

佐々木さんの家はガレージのおくに玄関がある形だ。藤堂さんはずかずかと車の横をすすんでいく。ぼくらはそのあとに続いた。

藤堂さんはぼくらが後ろにいるのを確認して、チャイムを押しした。

「わしじや。となりの藤堂だ。ちよつとすまんが顔だしてくれ。」

「はい。」

ミニスカートのおばさんができた。目がくりつとしてかわいらしい。しかし、ぼくらを見ると、警戒するような表情をうかべる。

「どうかしましたか？」

「いや、忙しいときにすまん。③聞きたいことがあって。こいつらが実験だとか調査だとか、うるさくいうもんでな。」

藤堂さんがそこまでいったときだ。

「あーっ！ 見て。」

フレッシュグリーンのパーカーが、目にとびこんできた。犯人にまちがえられたとき、ぼくが着ていたTシャツと同じ色。玄関にあるハン

ガーラックに、かけてあったのだ。

「おっ。」

藤堂さんもそれに目をとめる。

「なんですか？ じろじろと。」

おばさんはハンガーラックをかくすように前に立つ。

「いやその、じつはピンポンダッシュでな……。」

藤堂さんがそういったときだ。

「やはり、そのことで……。」

おばさんはあきらかにぎよつと顔をひきつらせ、玄関にひざをついてすわりこんだ。

「ごめんなさい。あやまりにいろいろと思ってたんです。でも、龍介がいやがるから、つい、あとで、あとでとなって。しかってはいたんですよ。ほんと、ごめんなさい。」

「え、えっ。」

ぼくらはみんな、顔を見合わせた。

ガレージにかくれる子どものがたを見ていなかったかと聞きたかっただけなのに、話がちがう方向にむかっている。

魔王が一步前にでた。

「龍介くんがピンポンダッシュをしたのですか？」

「えっ、そのことできたんじゃないんですか？」

おばさんが「まずった」という感じに口に手をあてる。

「ばかな。そんなはずはない。あの子はいい子だ。」

藤堂さんの声が大きくひびく。

すると、玄関の先にある階段から、ひとりの少年が「B」顔だけでした。龍介くんのような。

「④ピンポンダッシュ、もうしません。もうしないから、ママを怒らないで。」

「ガレージのところで、こそこそかくれていたから、聞いたでしたんです。でも、理由はあるんですよ。道場、やめたいから、藤堂さんにきられるようなことをしようと思っただけ。道場で怒られるのが、どうもいやだったらしく……。わたしが近所の手前、やめにくいからがまんしなさいとってしまっただけから、こじれたのかもしれない。すみません。ほんとうにすみません。」

おばさんが頭をさげる。

「わ、わしが、龍介くんをしかったってか？ あいさつは大きな声でとか、しゃきつと立てとか、そんなことくらいだろ。」

藤堂さんがそういうと、二階でひいっと泣き声があがった。

「藤堂さんにとっては、そんなことくらい、でも、あの子にとってはきつかったんです。あとであらためておわびにうかがいますから、今日はお帰りください。」

おばさんはぼくらを追いだすようにドアの外に押しだし、がしやんとかぎをかけた。

「龍介、だいじょうぶ？」

ドアのむこうから、そういつて階段をかけあがる音が聞こえた。

「なんだ。あれは？」

藤堂さんは、しょっぱいものをのみこんだように口もとをゆがめている。

「わしが『道場、楽しいか？』って聞いたら、楽しいって聞いていたんだぞ。」

「どんまいだよ。」

ぼくは藤堂さんの背中をたたいた。

「世の中、いろいろあるよ。ぼくもうまくいかないことばかりだもん。」

「お、おう。」

藤堂さんは、はずかしそうに目を細めた。

それから、深々とぼくに頭をさげてくれたんだ。

「わしの負けだな。犯人とまちがって、悪かった。わしのかんちが良かったようだ。」

「よっし。」

ぼくは、小さくガッツポーズした。ヤッター。

つかめた。⑤やっつと、真実がわかった。

藤堂さんにもあやまってもらえた。

達成感がこみあげてきて、思わず魔王とハイタッチする。

真実はぼくが想像したのとちがって、ちよつとにがい味のものだった。犯人は藤堂さんがかわいがっていた子だったからだ。藤堂さんにはたずらしてきられようとしてチャイムを押し込んだ。それでも、いざとなると、怒られるのがこわくなって、かくれてしまったのかもしれない。

どっちにしろご近所トラブルの一種なのだろう。

藤堂さんはすっかりしょげてしまっていた。でも、ぼくが帰るといって、よびとめてきた。

「もし、時間があったら、ジュースでも飲んでいかないか？ 犯人とまちがえたおわびだ。菓子もあるぞ。」

魔王は「ええっ。」と顔をこわばらせ、びびってあとずさり。けど、⑥ぼくはかまわず大きくうなずいた。

「はい。いただきます。」

(赤羽じゅんこ『ぼくらのスクープ』による)

(注1) ピンポンダッシュ——心ないいたずらの一つ。人家のチャイムを押し、自分はどこかに走ってにげてしまう。

(注2) 花台——植物をうえた植木鉢などを置く台。藤堂さんは事件の当日、ここで花の手入れをしていた。

問1 次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ ……………線部が「確認のため」という意味になるように「A」に入る一字の漢字を答えなさい。

Ⅱ 「B」が、「おそろおそろ」という意味になるように、○に入るひらがなを答えなさい。  
 ・【〇ず〇ずと】

問2 線部①「チャイムのボタンを赤くぬった」とありますが、魔王の考え出したこの方法について説明した次の文の「」に入ることばを、それぞれの指定の字数でぬき出して答えなさい。

・「この方法」によって「a・十五字」ところまでは証明できたが、「ぼく」が「b・七字」を証明することはできなかった。

問3 線部②「藤堂さんは目をしばたかせ、腕をくんだ」とありますが、このときの藤堂さんの気持ちとして最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ここで反論しておかなければ立場が不利になると思ひ、あせりを感じている。

イ 「ぼく」を犯人であると決めつけたことへの申し訳なさが芽生えつつある。

ウ 魔王がチャイムをならしたことが確実に証明されて、おどろきを隠せない。

エ 二人の言い分を認める一方で、「ぼく」への疑いを晴らすことができない。

問4 線部③「聞きたいことがあって」について、次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 藤堂さんは、どのようなことを聞きたかったのですか。その内容を二十五字で探し、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

Ⅱ このとき、おばさんはどのような気持ちでしたか。三十字以内で答えなさい。

問5 線部④「ピンポンダッシュ、もうしません」とありますが、龍介くんが「ピンポンダッシュ」をしたのはなぜだと考えられていますか。その理由としてふさわしくないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 藤堂さんの前では楽しそうなふりをしていたが、実際は、道場での訓練に苦痛を感じていたから。

イ 藤堂さんの指導は誰にとつても厳しく、意気地なしの自分には無理であると感じてしまったから。

ウ 藤堂さんの道場をやめたかったが、母親に反対されたことで、打つ手がなくなってしまうから。

エ 藤堂さんからきつい仕打ちを受けていると感じ、道場をやめるきっかけをつくろうと考えたから。

問6 線部⑤「やっと、真実がわかった」とありますが、「ぼく」が、龍介くんが犯人ではないかと疑いはじめたきっかけとなったものは何ですか。本文中から探し、ぬき出して答えなさい。

問7 線部⑥「ぼくはかまわず大きくうなずいた」とありますが、その理由についてまとめた次の表の「」に入る内容を、aは三十字以内、bは二十字以内で答えなさい。

理由①	「 」 になっていたから。	a	「 」 ことにより、晴れやかな気分
理由②	自分は藤堂さんのかんちがいによって犯人とまちがわれていたので、「 b		」 と思ったから。

問8 線部『どんまいだよ。』 ぼくは藤堂さんの背中をたたいた」とありますが、あなたが「ぼく」の立場なら、藤堂さんにどのようなことばをかけるでしょうか。八十字以内で自由に書きなさい。